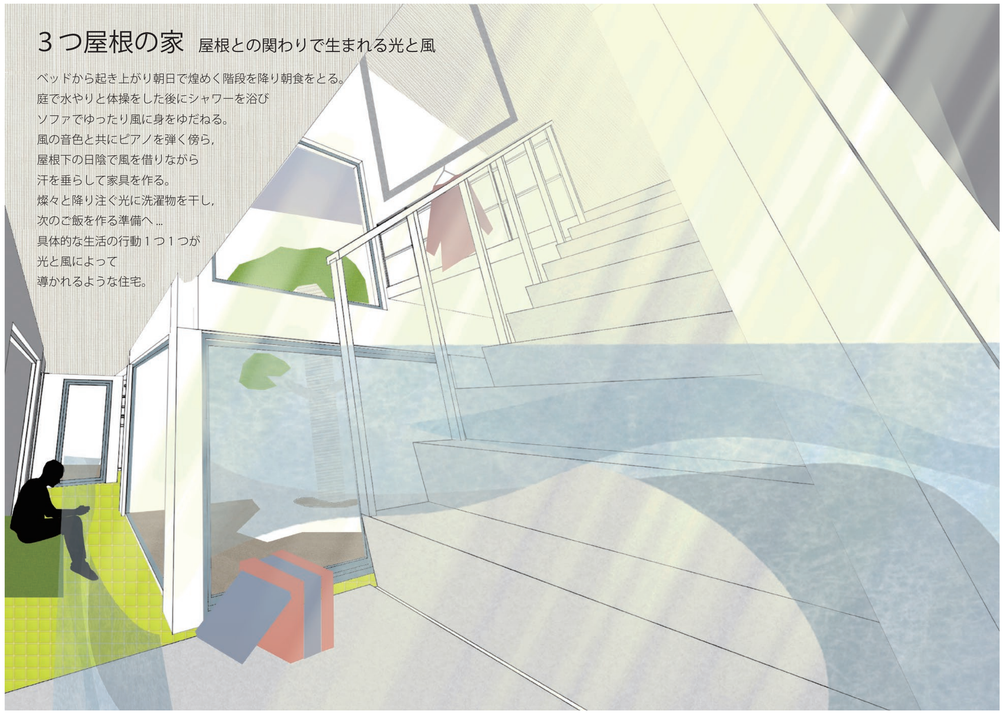
3つ屋根の家　屋根との関わりで生まれる光と風

ベッドから起き上がり朝日で煌めく階段を降り朝食をとる。
庭で水やりと体操をした後にシャワーを浴び
ソファでゆったり風に身をゆだねる。
風の音色と共にピアノを弾く傍ら，
屋根下の日陰で風を借りながら
汗を垂らして家具を作る。
燦々と降り注ぐ光に洗濯物を干し，
次のご飯を作る準備へ…
具体的な生活の行動１つ１つが
光と風によって
導かれるような住宅。



1 背景

秋田県全体で問題となっている人口減少。１つの解決策として「若者の移住」が挙げられる。だが，移住者は増えているものの，人口減少に歯止めはかかっていない。

そこで，若い世代のＵターン移住者が力強く暮らせることを示せば，新たなＡターンをする者たちのハードルが下がるのではないだろうか。そして，住み手（移住者）にも意思のある住み方が必要である。

さらに移住のハードルを下げつつ，暮らし方に強い芯を持つ移住者が一住宅街に集まると，将来の秋田を見据えた新たなサイクルを生むのではないか。そして，空き家が増えていく古い住宅街の中で移住が促進されれば，空き家問題の解決や，街の再生に繋がると考える。

移住サイクル

2 家族構成

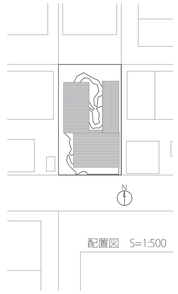
妻
秋田県大館市生まれ。
進学を機に上京し，イタリアン料理店で６年ほど働く。
結婚を機に大館市の飲食店に転職し，子育ても視野に入れて秋田にＵターンすることを決めた。
休日は地域おこし協力隊として空き家のリノベーションプロジェクトに参加している。
趣味はピアノを演奏すること。

夫
東京都生まれ。
東京でＩＴエンジニアとして８年働き，
今はフリーで仕事をしている。
コワーキングスペースなどが
秋田でも増えていることも後押しし，
秋田にＩターンすることを決意。
仕事とプライベートは分けたいので，車で 15 分ほどのビルに新しくできたオフススペースを借りている。
DIY などは経験がないので趣味で挑戦している。

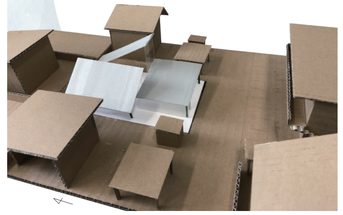
秋田で働きたい，秋田で子育てがしたい，秋田を元気にしたいと思う人が増えることを願った家族構成とした。

3 敷地

敷地は秋田県大館市大館駅より３駅ほどの旧某町にある築 40~50 年の古い住宅街。建て替える住宅や空き家が増えてきている。今回の敷地に建っていた住宅は解体され，空き地となっていた。両隣と後ろは空き家である。盆地で曇りと雪が多く，夏は暑く冬は寒い。

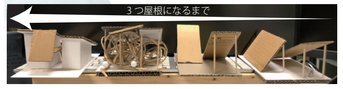


配置図　S=1:500



4 屋根

屋根は風景の輪郭となる。雪国の住宅における雪を落とすための屋根の傾斜に着目した。傾斜の角度・向きと下の生活の関係性を考える。細長い敷地を縦に分断し，２つの片流れ屋根を考え，それらの生活を繋ぐ屋根が生まれた。３つの屋根の下では生活が分断されておらず，生活の行動１つ１つが光を求めて屋根を押し上げていき，さらに風を求めて屋根下の平面計画をおこなった。



5 光と風

光
日照時間が少ない秋田の地でハレの時間は貴重である。３つに分かれた高さと傾きの異なる屋根たちが名室や中庭，北側の庭へ貴重なハレの光を導く。屋根下の日陰からは，日が当たる場所がより鮮明に美しく見える。ハレを活かす３つの屋根。そしてハレによって活きる屋根下の生活たち。

風
夏は北側と中庭の開口から大きく風を取り込み，南側と東側の小さな開口を出口にして流れを作る。庭の木々を揺らし，生活１つ１つを豊かにすり抜けていく。

冬は屋根と落雪でできた「壁」が西や北方向からの冷たい風を防ぐ。それは人々を暖かく包み込むかまくらのようなソフト面の役割と，命を寒さから守る雪洞のようなハード面の役割をもつ。

野生的で一方的に享受する関係の光と風を，ていねいに迎え入れたり断ったりして，共に豊かに暮らすことができる住宅を提案する。

光のダイアグラム

風のダイアグラム

6 具体的生活

用途や機能に縛られない自由な発想で家族なりに空間を使うことが豊かな暮らしと考える。ソファが置けるくらい幅が広い廊下や，ちょっとした物置になる踊り場とその下の空間。リビング・ダイニング・キッチンはテラス・庭までを含んでいる。空間がお互いの領域に侵食していき，光と風が連続した室内を駆け抜ける。

各部屋は全て天井高が異なる。天井が近く安心感のある寝室。屋根の傾きによって生まれた東・南・西側の大きな窓からの光で物干しとダイニング・キッチンを照らす。プライバシーが確保された浴室には大きな窓を設け，中庭を見渡すことできる。演奏室はリビングより高い天井高で，ピアノの音色が気持ちよく響き渡る。

独立してしまう車庫を室内ごと覆う屋根の下に取り込む。雪かきの労力を最小限にし，さらに車が目隠しとなることで生活の一部となる。

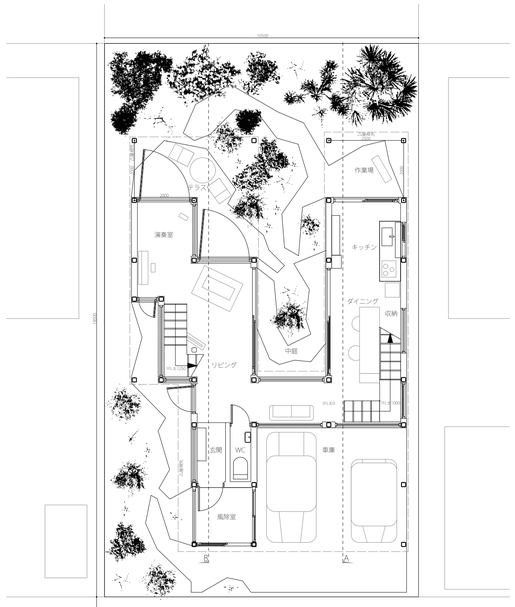
屋根の下から庭へ伸びていく床が人工物と自然を有機的に繋いでいく。さらに間取りを超えて伸びやかに広がる生活に，屋根を介してメリハリをつけていく。

7 将来

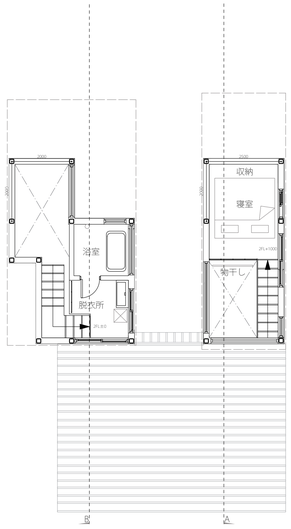
住宅街で暗くなりがちな北側に庭を設けた。それに合わせた屋根の傾きとした。将来周辺の住宅が改築や建て替えを行う際に，採光しやすく，お互いのプライバシーも守るような屋根の向きとなっている。新しい住宅街の在り方として周辺住宅のデザインの可能性を広げるよう配慮した。

また，子供が生まれ成長し，新しく部屋が欲しいとなった場合に屋根下の空間に増築することができる。

末長く家族と成長できる住宅。

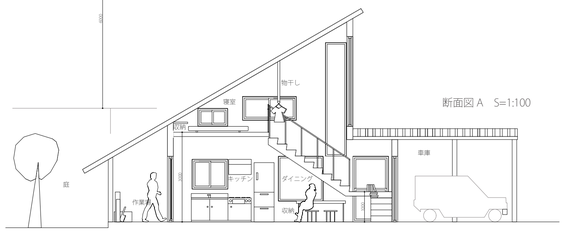


1 階平面図　S=1:100

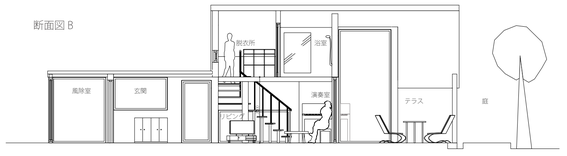


2 階平面図

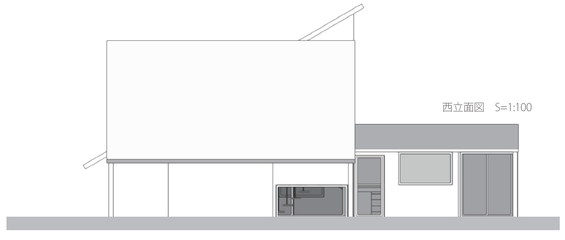
各階面積	1F：71.07 ㎡
	2F：10.346+12.57＝22.916 ㎡
延べ床面積	93.986 ㎡
建築面積	113.817 ㎡



断面図 A　S=1:100



断面図 B


西立面図　S=1:100

東立面図